

lafont.

カフェ・ド・ラフォン 21 号

Q&A 春夏コレクション (silmo) 2014

1. シルモ展で発表されたコレクションテーマ「ロマンス」について教えてください。



「ロマンス」とは、ハッピーエンドで終わる恋愛小説のことを意味します。物語は、二人の恋愛過程で起こるすれ違いや衝突を乗り越えた末にロマンティックな終焉を迎えます。一般的に、「ロマンス」には精神的充足感や楽観的な結末がつきものです。例えば、邪魔者の登場がストーリーの雲行きを怪しくし、二人の愛が試された末に善良な主人公が救われ無条件の愛を享受するといった展開です。

「ラ・パリジェンヌ」、「ランデヴー」と続いてきた物語は、ヒロインの恋愛模様がハッピーエンドを迎える今回の「ロマンス」で完結します。私たちは「ロマンス」とは、ヒーローとヒロインが幾度かの困難を乗り越えて築いた、ロマンティックな恋愛模様という意味を込めています。

シルモ展のブースはライトベージュ(肌色)やライトブルー、ライトグリーンを基調としました。ヨーロッパではパステルカラーに「柔らか」「優しい」「女性的」「繊細」などのイメージがあるので、コレクションテーマであるロマンティックな恋愛模様を表現するため淡く優美なパステルカラーを使用しました。

そもそもパステルカラーのパステルとは乾燥させた顔料を粉末状にして練り固めた画材のことで、ルネッサンス期初頭にデッサン用チョークとして誕生しました。パステルは油彩と異なり発色性



ディスプレイのあちこちに置かれたガラス玉の女性は 18 世紀のフランス人画家モーリス＝カンタン・ドラトゥールの描いたボンパドゥール夫人の肖像画です。ドラトゥールはロココ様式を代表するパステル肖像画家として傑作を残しています。



があり、隣り合う色同士が自然に混ざり合い微妙な色調が生まれる為、柔らかかで繊細な雰囲気を出すことができます。パステルの質感は、スナップ写真で一瞬を切り取ったかのような軽やかで繊細なタッチを持ち、柔らかく輝きを帯びた人物の感情の機微すらも捉え、豊かで複雑、意味深げで親密な表現を可能としました。それは人生を謳歌する人々を表現したロココ様式 of 精神性や表現方法と相性が良く、18 世紀に入ると急速に普及し多くの画家がパステルをこぞって主要媒体にしました。こうして人々の多大な称賛を以って迎えられたパステルから派生して、“パステルで作品を作る”という動詞や、“淡い色合い”という名詞・形容詞も生まれました。



淡く優しい色合いの印象から、一般的にはパステルはピンクやモーヴ、ベビーブルーが典型的なカラーとされていますが、トーマを含めデザインスタジオで議論を重ね、本コレクションではパステルカラーをやや違ったアプローチから表現しようということになり、新たなライトブルーやライトグリーンを作りました。例えば今回の新色、3011 カラー(ダークブルー×ライトグリーン)、3018 カラー(ブルー)、4015 カラー(シーグリーン)、6019 カラー(コーラル)などです。



2. 今回のモデルのモチーフについて教えてください。

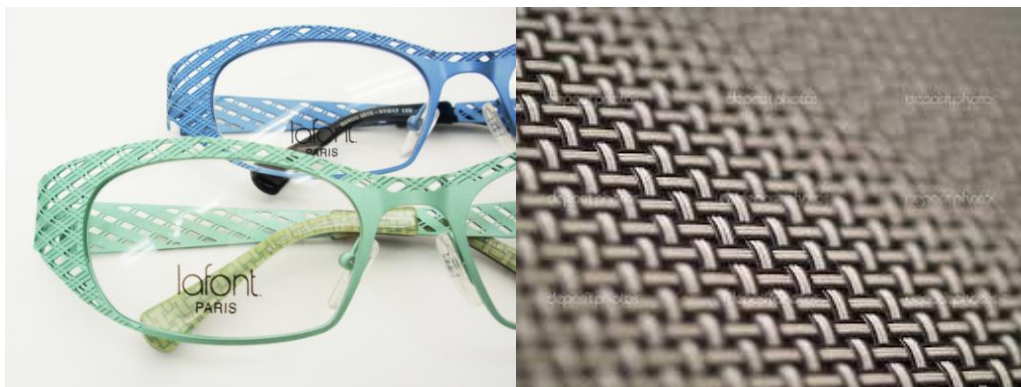
NIRVANA(ニルバーナ) エッチングの透かし模様はアール・ヌーボーの柄です。「接吻」に代表されるクリムトの絵画からインスピレーションを受けました。



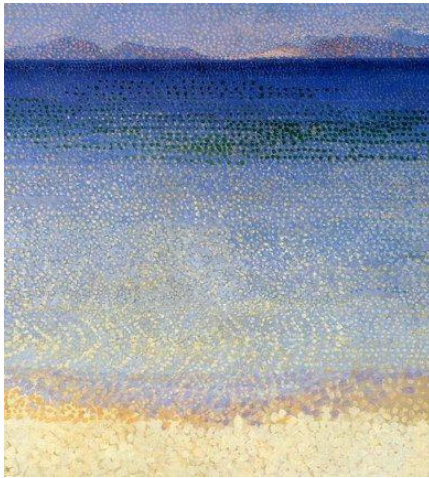
NABUCCO(ナブッコ) フロントメタルに施された繊細な輪の連なりはシャンパンの泡のイメージです。



NANO(ナヌ) 軽やかなメタルレースは生地編み目模様からのインスピレーションです。



NEREIDE(ネレイード) フランス印象派画家の点描技法をイメージしてメタルシートにカラーリングし、その上に細かい花柄の透かし模様を組み合わせたロマンティックなモデルです。



NECTAR(ネクタール) 80年代のフォックス型フレームのイメージです。職人がひとつずつ手作業で取り付けたスワロスフキーがさりげなく目元に華を添えます。(ちなみに、右の豹柄フレームはラフオンのヴィンテージです。)



NOEMIE(ノエミ) サイドのラインモチーフは女性のメイキャップからのイメージです。



NIGHT(ナイト) 朝日が広がっていくイメージを表現しています。



NAUSICCA(ノシカ) ロマンティックなバラの茂みをモチーフにレース細工を施したモデルです。



NAUTILE(ノティル) 波のようなうねりのある凹凸に、パンサーモチーフのレースを施しています。



NAIADE(ナイアードゥ) ドット柄にドットの透かしを重ねて。“ドット・オン・ドット”のポップな印象です。



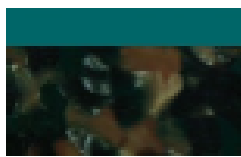
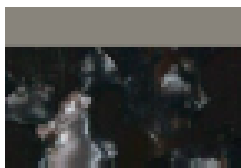
3. 新色のインスピレーションについて教えてください。

ストライプ・・・3012 & 5013 & 6012（上から）

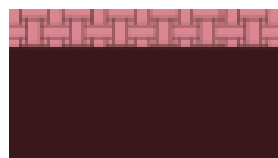
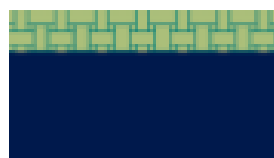


NEPTUNE などに使われている新色の裏生地を使用したストライプは、フランス人が庭でくつろぐ時に使うガーデンチェア特有のストライプ模様からインスピレーションを受けています。

プレシャストーン・・・1014(貝殻)& 3010(ラピスラズリ)& 4010(大理石)（上から）



ウィーヴ/網目・・・1012 & 3011 & 5012（左から）



生地の網目模様からのインスピレーションです。



4. 今年はラフォンが 90 周年を迎えたと聞きましたがその背景について教えてください。



写真 1・ラフォンブースに設置されたアール・ヌーボーの鉄飾りが美しいヴィンテージ・キャビネットは、以前サント・ノーレ店の物件を購入した際にマダム・ラフォンがベルギーで店用に買い付けたもの。写真 2・キャビネットに飾られたラフォンのアンティーク。先代や 2 代目の手によるべつ甲製補聴器や黎明期の眼鏡が並べられた。写真 3・マダム・ラフォン・1984 年のデザイン。当時はテンプル中央に羽根が装着できるようになっていた。それを模して作ったのがフランス革命 200 周年モデル(写真 4)。写真 5・本店と隣のバーを貸し切りで行われたラフォン・ファミリー主催のアニバーサリー・パーティー。写真 6・本店のガラスドアにも「90ans (90 周年)」の文字。写真 7・フィリップ社長宅にある動物画のレプリカやヒョウ柄のクッションでラフォン・ファミリーにゆかりのあるモチーフがディスプレイされた。

1923 年……。それは、ファミリー・ストーリーのはじまりです。ルイ・ラフォンがパリ・8 区のマドレーヌに初めて店を構え、そこからラフォンは創業 90 年を迎えました。そこで私たちは、ヴィニヨン通りにあるこのブティックのお祝いをシルモ展の時期に重ねました。シルモ展のブースでは、ブティックで長年使用してきたヴィンテージ家具を配置し、そのガラス棚にはラフォン社所蔵のアーカイヴの中から先代達の貴重な作品を展示しました。また、マドレーヌ本店では関係者を集めた小さなパーティーを開き、その年月を称えました。現在、チーフデザイナーのトーマは 4 代目。ラフォンのストーリーはまだまだ続きます……。

5. 最近のラフォンブティックのディスプレイを教えてください。

9 月のディスプレイ。創業 90 年のアニバーサリー・ウィンドウです。



10 月のディスプレイ。秋冬編「ランデヴー」のイメージです。



12月のディスプレイ。クリスマス。ロイ・リキテンスタイン風ポップアート・ウィンドウです。



1月のディスプレイ。

